

Team パンプキン



鈴木（松阪）、小口（八千代医療）、川島（済生会福井）、佐藤（市立角館）
千葉（奥州消防）、大石（日赤青森）、黒崎（那覇市立）

今回のMISSION

災害種別：M9.0 地震（宮城県沖）

日 時：7月23日 14:46

被害状況：岩手県内各地で震度6以上

巨大な津波により壊滅的な被害

岩手県内全域 ライフライン寸断

死者、行方不明、大多数

行政、医療機関も甚大な被害

岩手医科大学本部からの指示

派遣先：宮古市保健所



宮古市保健所へ



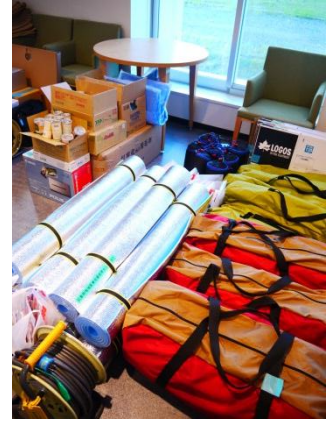
派遣先までの移動経路

乗用車2台に分乗

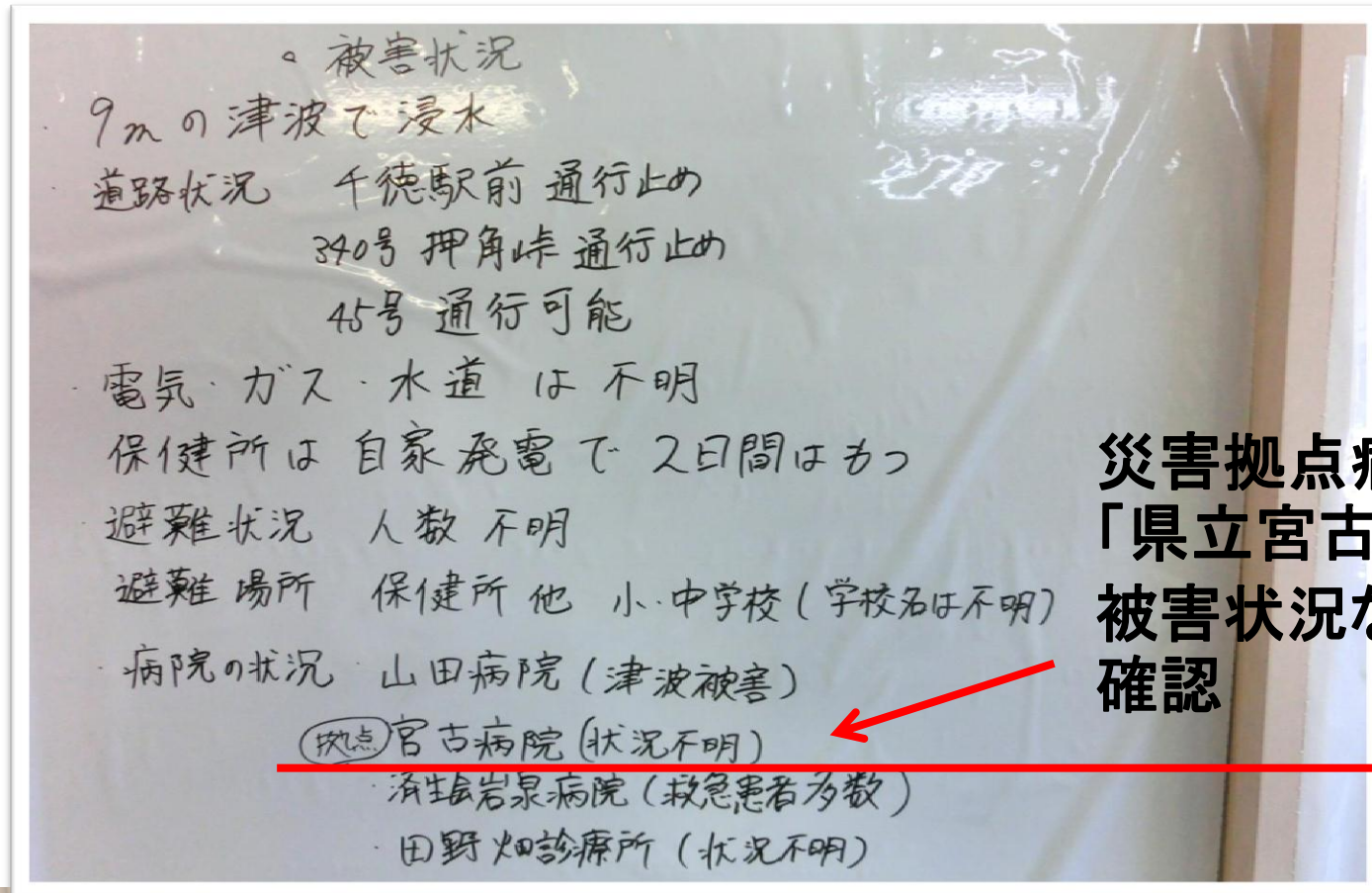
岩手医科大学からR106を宮古方面へ

→宮古市千徳駅前液状化

→迂回して宮古保健所へ



宮古保健所(宮古地区)の被害



災害拠点病院である
「県立宮古病院」への
被害状況などの状況
確認



県立宮古病院へ



県立宮古病院の被害状況

○ライフライン

- ・水道:貯水タンク使用。残り2日
- ・ガス:使用不可
- ・電気:自家発電中。残り2日

○インフラ

- ・固定電話:使用不可
- ・携帯:繋がらないことが多い

○医療

- ・手術:不可。(空調使えないため)
- ・人工透析:不可
- ・患者:多数来院しキャパオーバー。
重症患者搬送の必要可能性あり

○備蓄

- ・薬剤:数日分
- ・食糧:患者分3日分



活動本部のレイアウト

コントローラー

クロノロ入力

クロノロ

リーダー

その他情報

EMIS入力



通信の確保



活力の確保



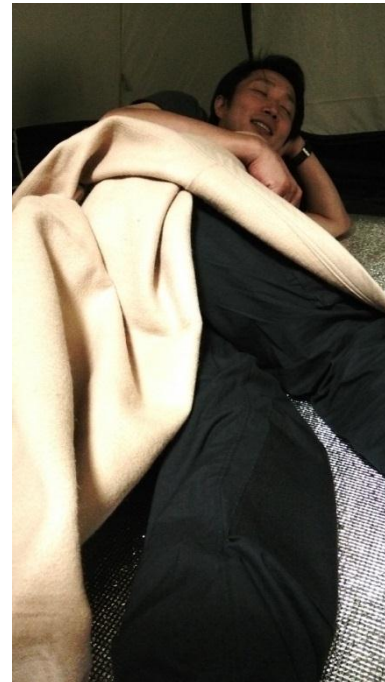
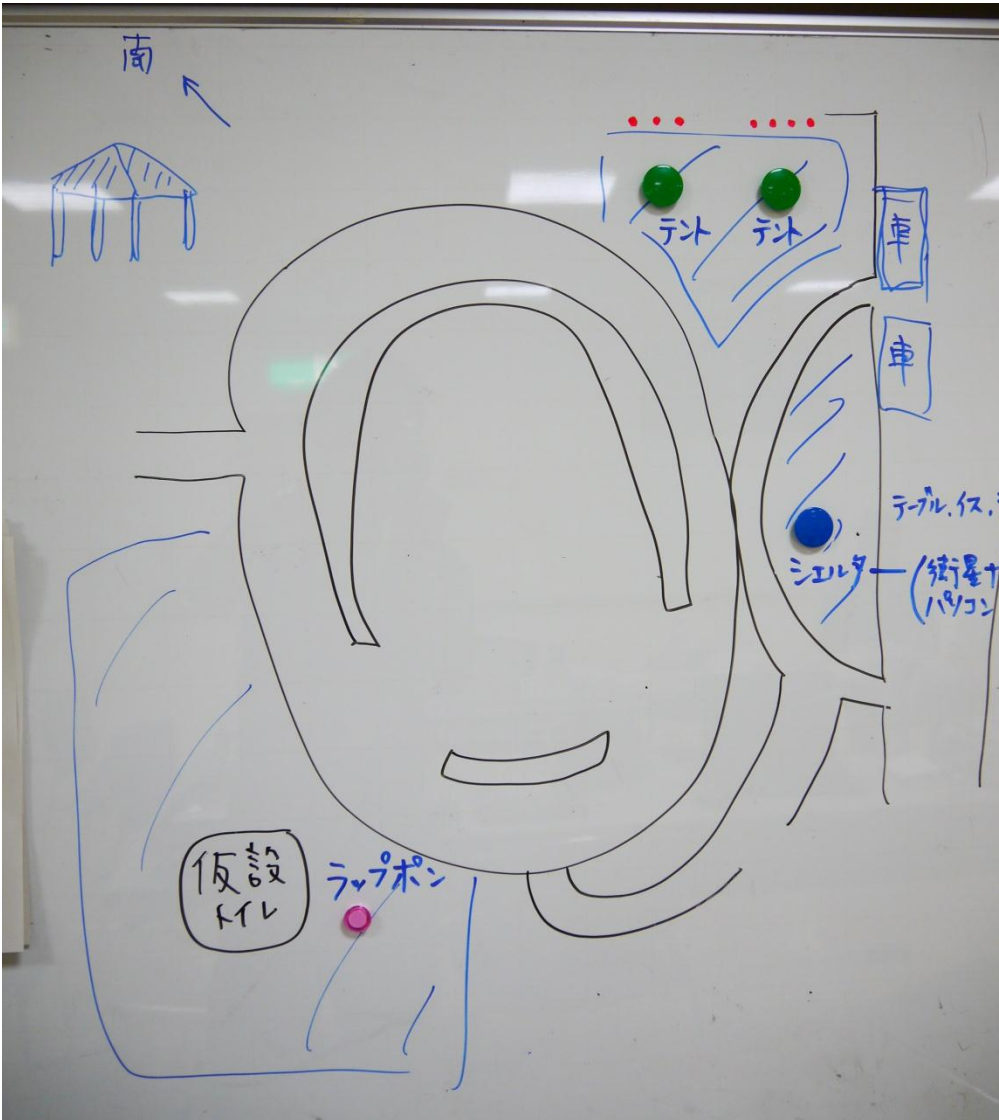
水の確保するも、すぐに水漏れ
補強テープで応急対応



トイレの確保



寢床の確保



活動本部 クロノロ①

- 14:15 本部立ち上げ準備、通信確保
- 15:03 患者搬送依頼、DMAT派遣要請
- 15:33 隊員2名が近藤医院、新里診療所の現状確認へ
- 16:21 宮古市被害判明
- 16:38 地域クリニック支援
- 18:10 青森DMAT3隊到着
- 18:22 宮古保健所へ状況報告



活動本部 クロノロ②

○患者搬送

- ・重症10名、中等症40名、搬送必要患者14名(クラッシュ症候群2名含)、透析患者3名の搬送依頼

- クラッシュ症候群2名を県立中央病院へ搬送

- 透析患者3名搬送

- 搬送必要患者12名残り

○慢性患者

- ・維持透析患者、COPD患者対応

- ・隊員可能な患者は退院

○ライフライン

- ・自家発電、水補充の手配

- ・ガス、重油、水の確保

○病院避難検討



活動本部 クロノロ③

- 20:10 余震発生→一次避難
- 21:05 岩泉病院野営地で熊出現→宮古病院へ
- 21:15 宮古保健所から本部機能移譲
- 23:37 岩泉病院チーム到着

19:58
 20:15 宮古HOP 管理課長 余震情報, 屋外退避 報告
 20:20 屋外退避完了 (4-4無事 屋外退避完了)
 20:34 宮古保健所 屋外退避完了, 安全報告完了 (X-11済)
 20:35 テント設営開始
 20:36 宮古HOP 管理課長 被害状況確認 → 被害なし
 20:38 松坂 宮古保健所 被害状況報告済
 21:05 宮古保健所 岩泉病院の夜営地で熊が出現。
 徹り直し, 移動先を調整中。
 宮古保健所の通信が不安定のため



活動報告(別行動)

- ・近藤医院、新里診療所の現状確認へ



活動要旨

- ①宮古市保健所に出向き、県立宮古病院の病院支援を行った
- ②患者搬送(クラッシュ2名,透析3名)を行った
- ③近隣病院2か所の状況確認を行った
- ④済生会岩泉病院(京大チーム)を受け入れた
- ⑤活動拠点であった宮古市保健所の機能から移譲された



反省点・課題

- ①出発が遅れ、移動・MISSIONクリアに時間を要した
- ②資器材・食料の選定・量には想定が難しい
- ③通信の確保・衛星電話連絡の応需がスムーズに進まなかった
- ④チーム内の役割分担が甘かった
- ⑤それぞれの立場における必要とすべきことを把握・行動できていなかった
- ⑥休息の時間が十分に確保できなかった



感想・まとめ

- 活動する立場によって、求められるものが変化し、それに対応していかなければならない
- 岩手は熊が出現する ^^;
- 災害医療における「情報・通信」は重要である
- 必要とされるロジ資器材を想定し、準備する
- 災害医療におけるロジスティクスの重要性を身をもって経験できた



ご清聴ありがとうございました。



Team パンプキン